

1

黄色い薔薇



material

創作者：岩波文庫「T.T.ポルヘス著」読者

「感じ」って難しいイメージを使ってみたが「ファーマ」が口をそろえて、新しいホメーロス、新しいタレントと呼んだ、かの有名なヨヴァンニ・マッティヌ・マリノは、あの午後にも、また翌日の午後にも死にはしなかった。しかし、あのとき静かに生じた動かせない事実、それが彼の生涯の最後の出来事だったということである。船を重畳で栄光に包まれた彼は、柱に影射の透されたスライム、手つら大きなベッドで死を迎えようとしていた。想像するのは容易なはずだが、教生を頼りたところには西を向いた静かなバルコニーがあり、下には、大理石や月桂樹、長方形の水に階段を映している庭園などがあった。一人の女にうって替りに黄色い薔薇が投げ入れられていた。彼は、正面を向い、彼自身にまさか退屈なしろものになっていたが、つい口を笑く声を出していた。

庭園の美女、教生の愛慕
 早春の宝玉、四月の朝露・・・

そのとき暗示があった、楽園のダムも見えていたが、それはすがすがしい、マリノは薔薇を「見た」。

そして、薔薇は彼のことはなかなかに永く、永遠のなかには生きていくこと、言葉を記すか暗示することにもなるとも、裏返すことにはあきらまなかった。また庭園の隅に金の糸を落としていた、うすたか、かい、静かな音物は、彼の夢にあやうな、世界の裏ではなく、世界に括えられた、また、また、この暗示をマリノが受けたのは死の前である。おそろしく、ホメーロスやヤンテもまた、かたがたにない。

黄色い薔薇

concept

静かに生じた動かせない事実



栄光につつまれた



高杯に黄色い薔薇が
投げ入れられていた



いささか退屈なしろもの



早春の宝玉



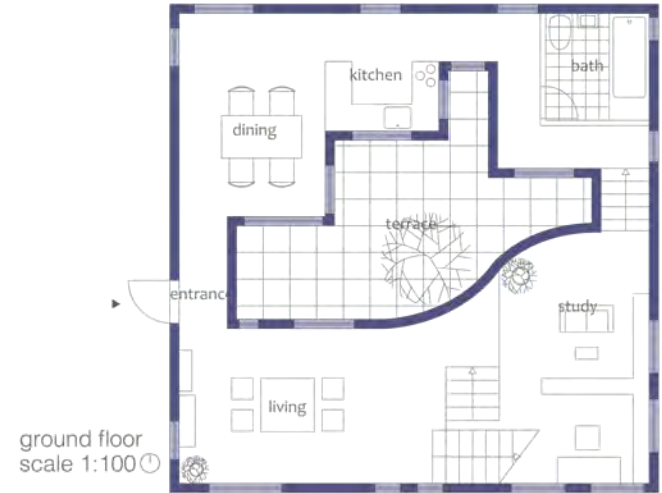
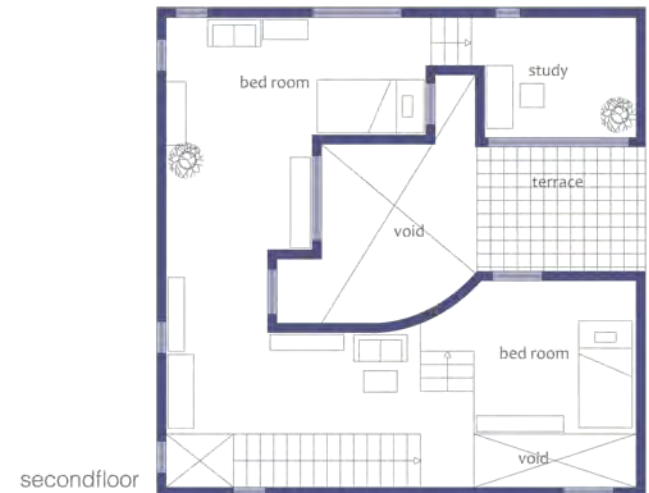
ことばのなかではなく
己の永遠のなかで生きている



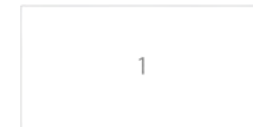
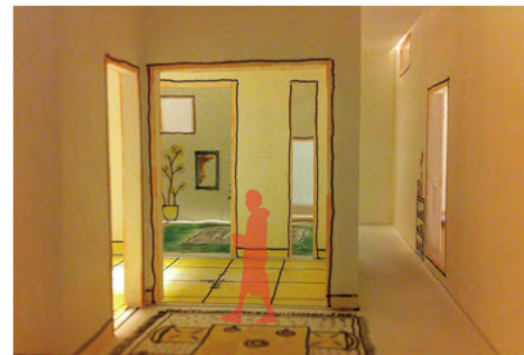
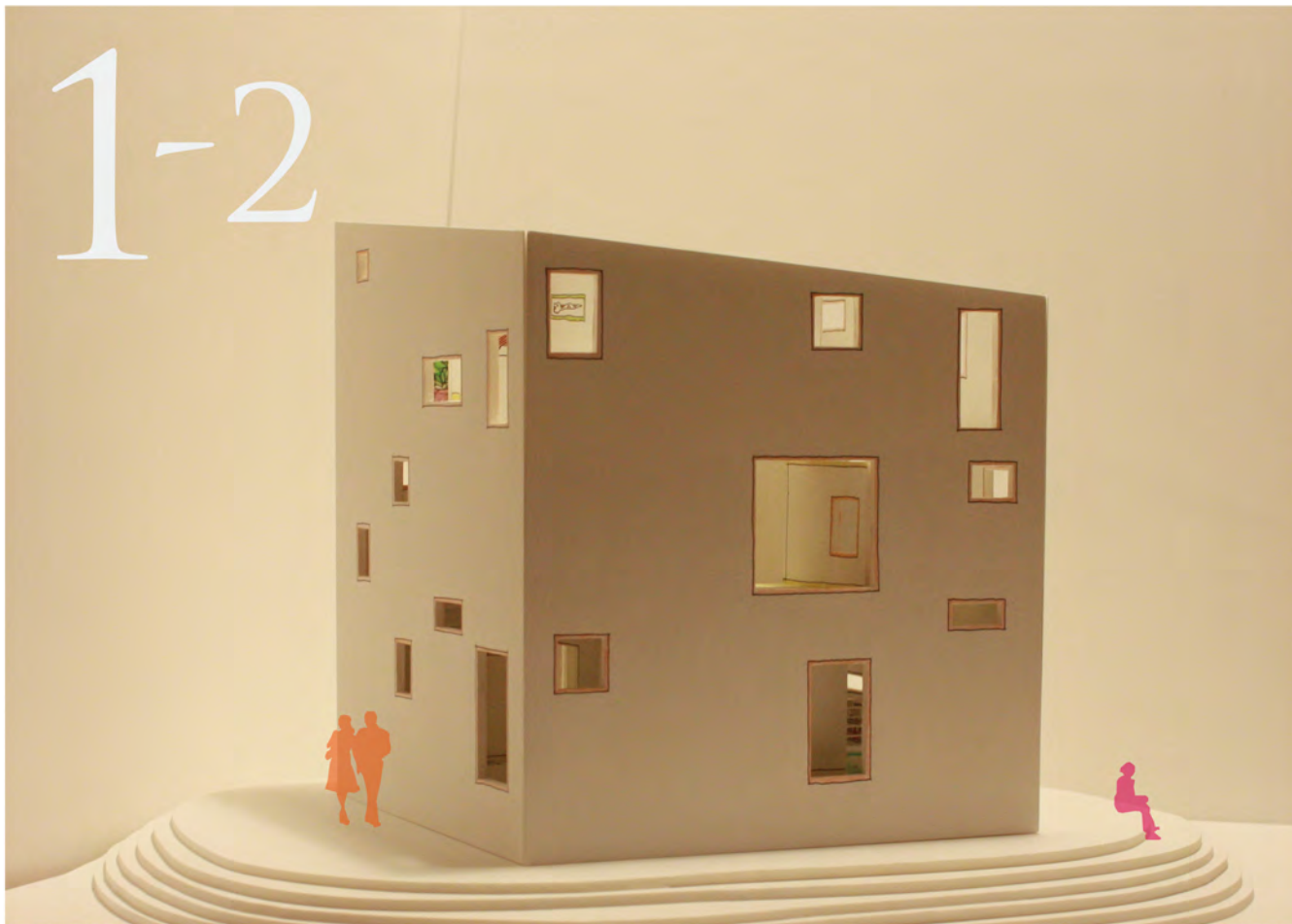
詩の中から選んだ語句を、恣意的に図像化



中庭のでっぱり、ひっこみ
によって分節される部屋たち。
各部屋はドアでは無く、ひょうたんの
ようなくびれによって分節され、
生活のプライバシーは場所によって変化する
コンセプトの決定



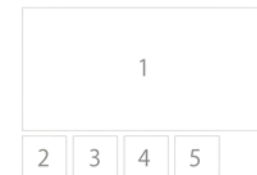
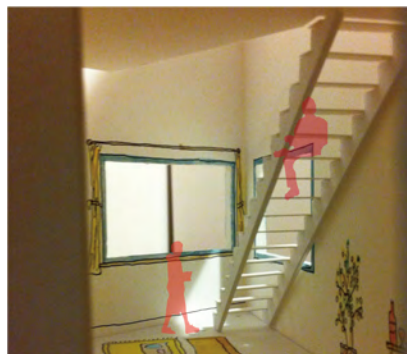
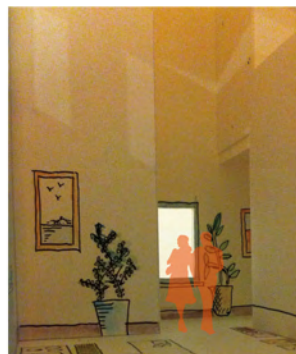
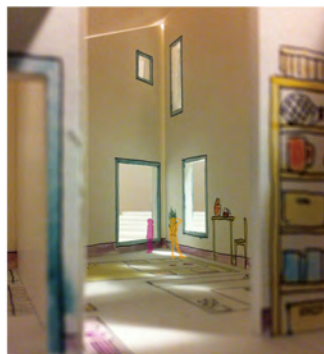
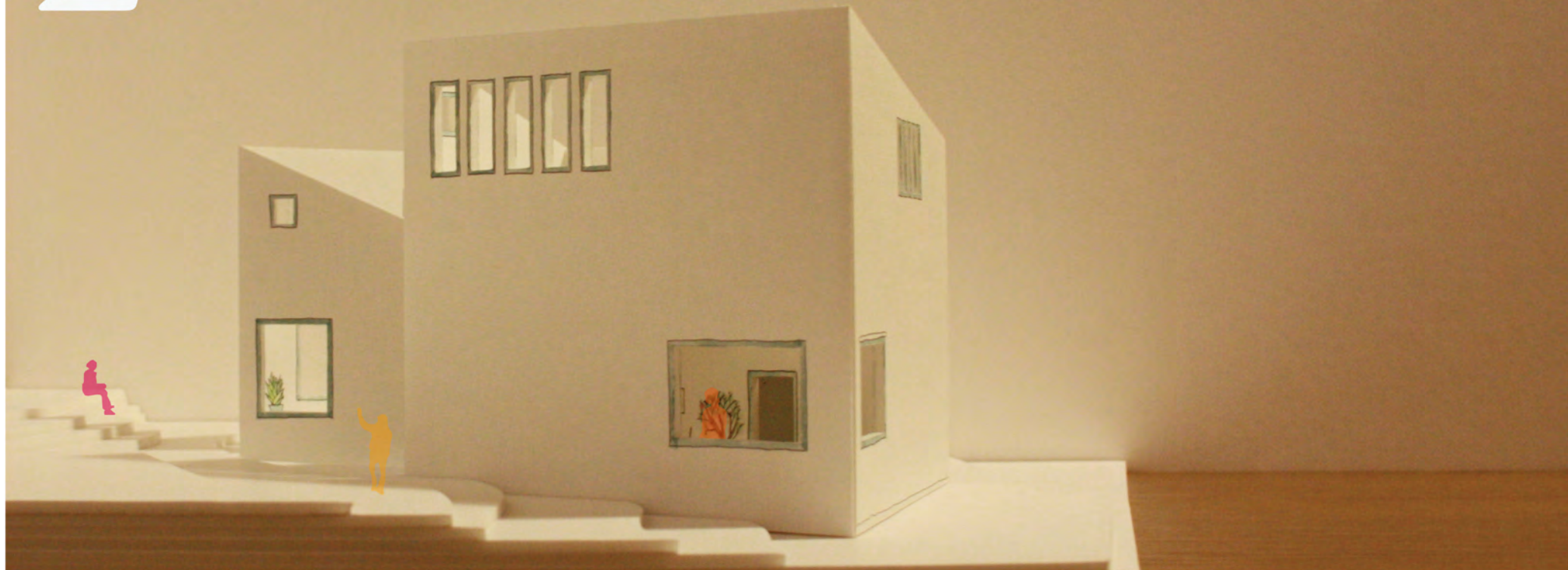
1-2



2 3 4

- 1 北西の方角から見た建物外観
- 2 書斎から南側壁を見る
- 3 3F テラスから中庭を見る
- 4 ダイニングから中庭を見る

2-2



- 1 北西の方角から見た建物外観
- 2 エントランスからダイニングを見る
- 3 ダイニングからエントランスを見る
- 4 リビングから2Fへの階段を見る
- 5 北東の方角から見た建物外観

3

月の隠喩

material

語り伝えによれば、さまざまな
現実の、現実の、奇様な
出来事が生じたあの浦島太郎。
一人の人間が、一冊の書物に、
宇宙を節約するという造りかたも
多くを、静謐な輝きで
高橋で飾られた面をまとって、
推し進める前後の進行に注した。

空運に感謝を捧げようとして、
ふと頭をあげると、空にかか
りかたの回線に入り、月を
連れていく事を期して動機で、

このわたしの家は星のものとすきだが、
わたしたち、自分の生を知らぬ。他人
の仕事にたずさわる者です。
月力をよく表してあげよう。

本質的なものは常に変われる。それは
意識にかかると、一切のことは定めである。
月との長い付き合いは、この
中絶にたたくべきであったのだ。

人も知るとおり、この移ろいやすい生は、
多くのことと同じで、ひびく美しく見えるときがあり、
事々、おなじみの月、彼女。

「八」のお話を眺めたかへもあるのだ。

多くの月よりもむしろ、わたしは
「八」の月のほうが思い出す。パラドに
入るとを思える、輸入されたドラゴン・ムーンや
「八」の面を穿たれた月のほか、

「八」は星と星に交差した
「八」について、幾つかの物語が
あり、月がひびく音が聞こえてくる。
星がひびく音が聞こえてくる。
星がひびく音が聞こえてくる。

「八」は星と星に交差した
「八」について、幾つかの物語が
あり、月がひびく音が聞こえてくる。
星がひびく音が聞こえてくる。
星がひびく音が聞こえてくる。

「八」は星と星に交差した
「八」について、幾つかの物語が
あり、月がひびく音が聞こえてくる。
星がひびく音が聞こえてくる。
星がひびく音が聞こえてくる。

月

「八」は星と星に交差した
「八」について、幾つかの物語が
あり、月がひびく音が聞こえてくる。
星がひびく音が聞こえてくる。
星がひびく音が聞こえてくる。

「八」は星と星に交差した
「八」について、幾つかの物語が
あり、月がひびく音が聞こえてくる。
星がひびく音が聞こえてくる。
星がひびく音が聞こえてくる。

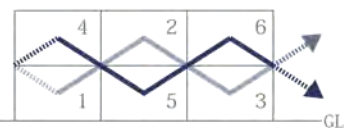
「八」は星と星に交差した
「八」について、幾つかの物語が
あり、月がひびく音が聞こえてくる。
星がひびく音が聞こえてくる。
星がひびく音が聞こえてくる。

「八」は星と星に交差した
「八」について、幾つかの物語が
あり、月がひびく音が聞こえてくる。
星がひびく音が聞こえてくる。
星がひびく音が聞こえてくる。

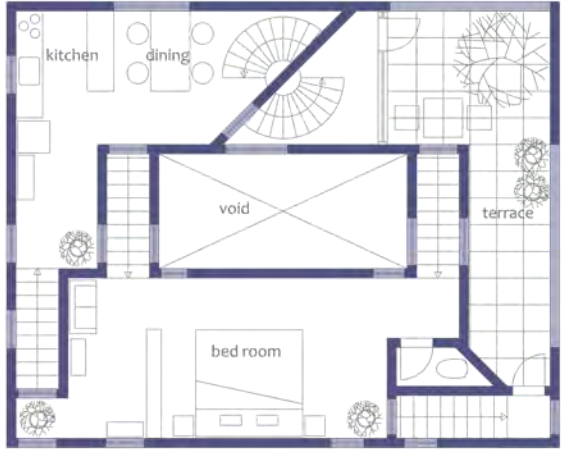
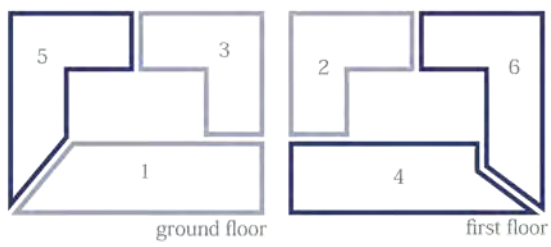
concept



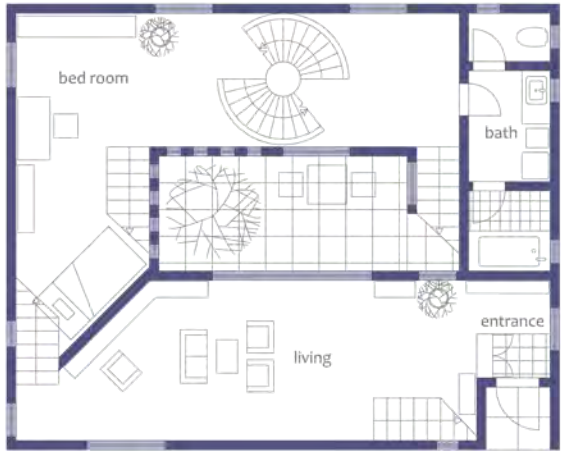
→ 近くて、遠いもの..... →



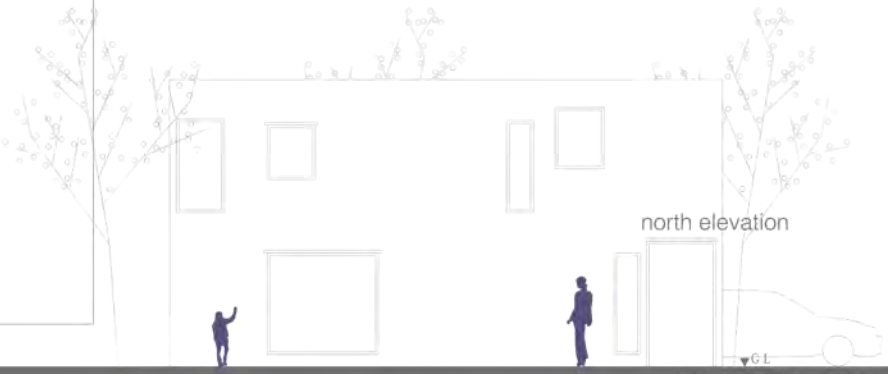
隣の部屋は、すぐそばに見えるけど遠い。
部屋と部屋は1階と2階の斜めの関係の部屋同士で
つながり、一筆書きの状態になる。



first floor

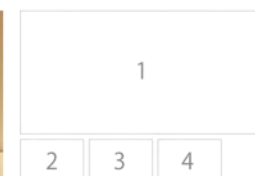
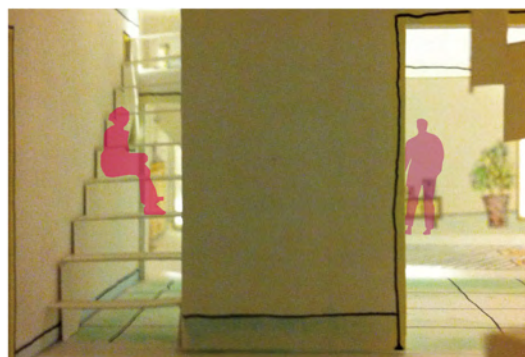
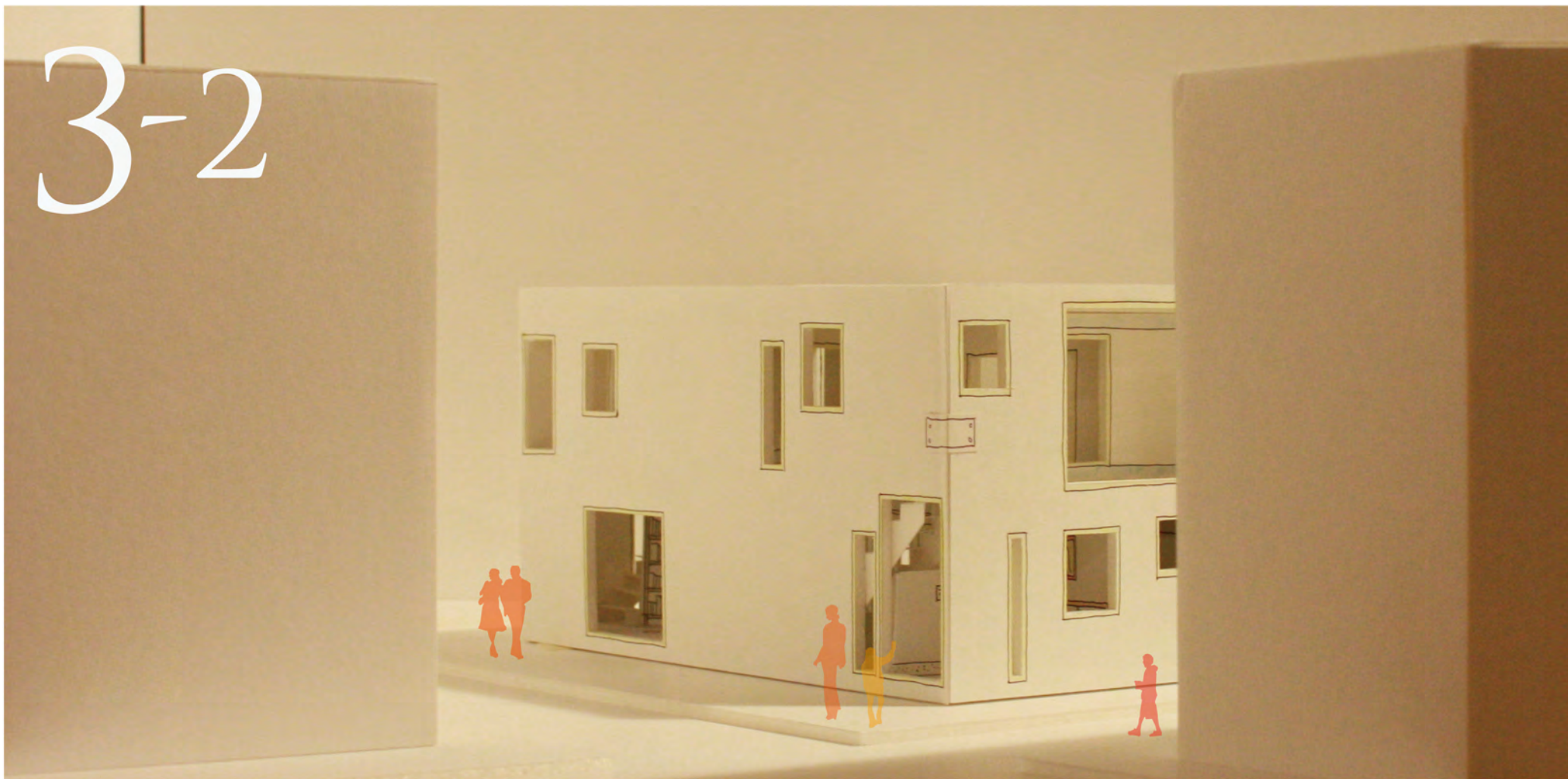


ground floor
scale 1:50



north elevation

3-2



- 1 南東の方角から見た建物外観
- 2 リビングから中庭とエントランスを見る
- 3 北東廊下から中庭を見る
- 4 北東外観を斜め上空から見る

4

象棋



material

象棋

I
 馬を動かす一環で、指したらは
 めったりとした駒を動かす。駒は
 一種の色が優勢を占めつけ合う戦場
 的に夜明けまで彼らを引き止める。
 その上で動くべき精密さを放っている

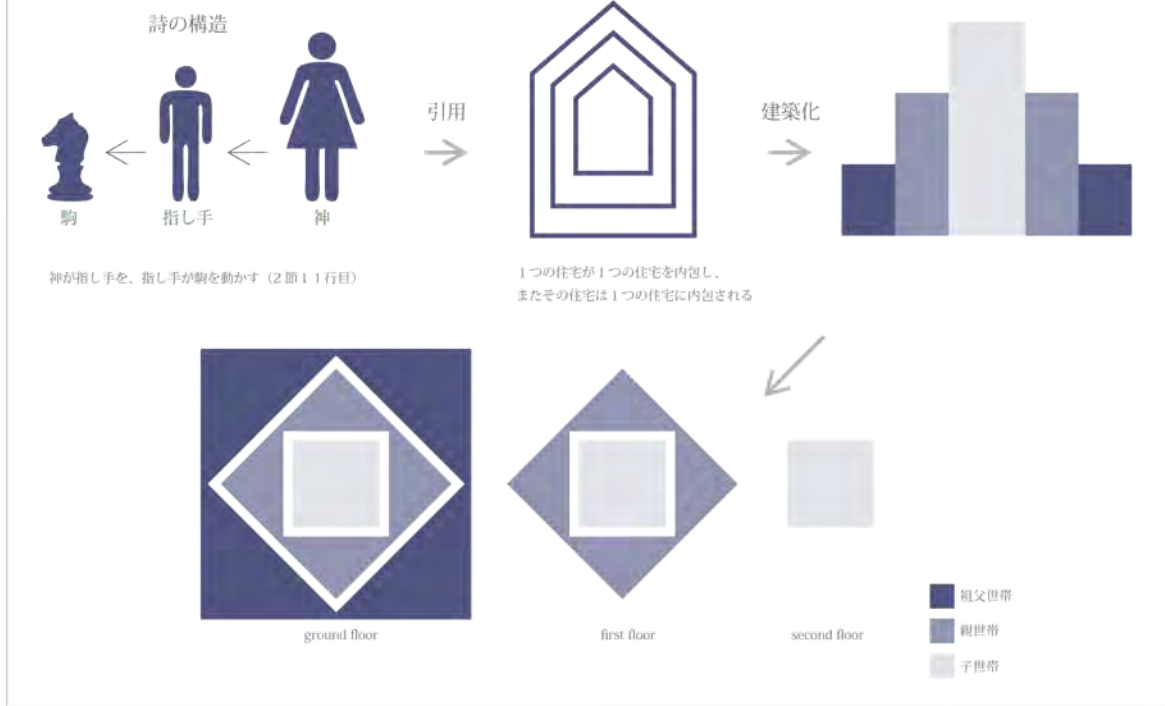
もう一つの駒、よーメーロス等の項、騎士の
 馬、甲冑をまとうた女工、夜明けの
 路行する象、そして夜明けの歩兵
 指し手たちがその思をおこす。
 駒が彼らを生かす。
 儀式が終わらぬとは味かなろう
 東方で火の手が上がったこの戦いは
 うては全世界がその闘技場である
 指し手の思に即してこれは無期に及ぶのだ

II
 指す駒は、指す駒、血に染めた
 女工、能弁する者、狡猾な歩兵は
 その運路の思と口づらえ、
 彼ら求めて駒を動かす。

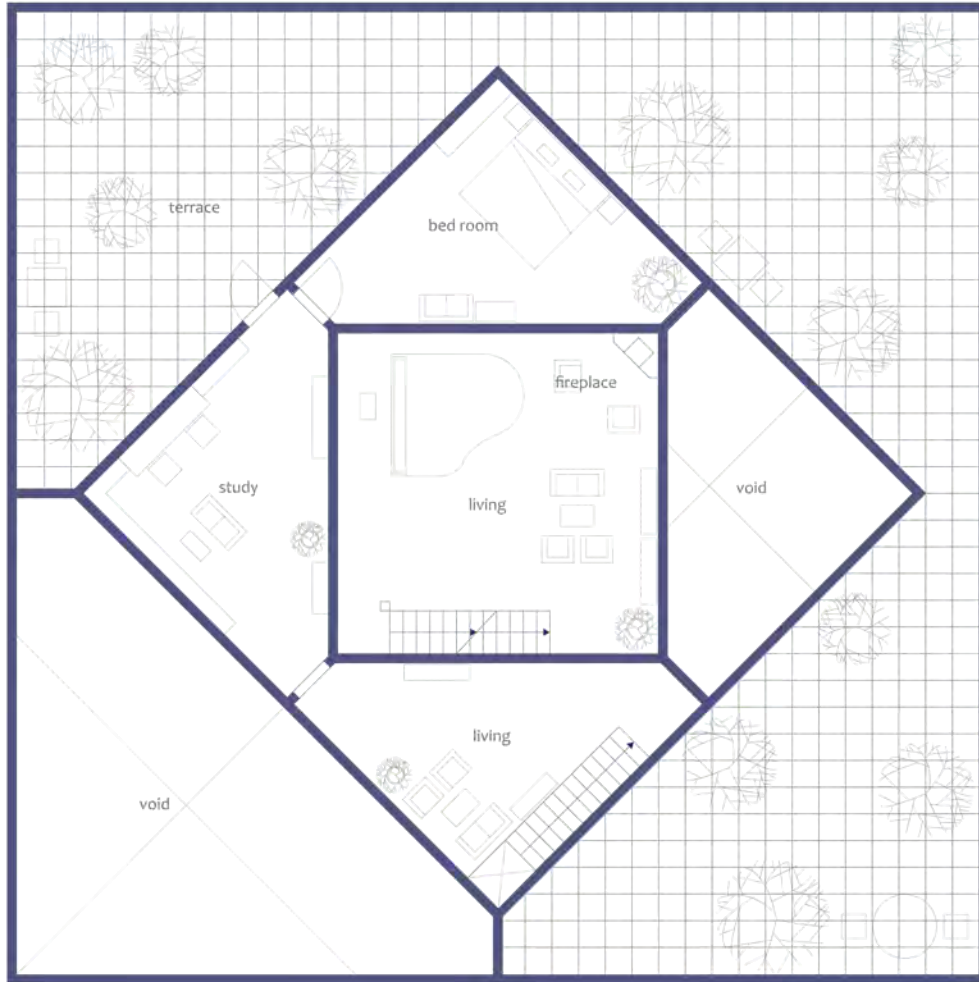
彼らは指しての思を動かす
 その思を動かしている思を動かさない。
 彼らは金輪右の思に動かすものか
 その思を動かす思を動かす思を動かす
 指し手もまた（ワタルの思ではないが）
 思いつきといふ思の思に動かす思を動かす
 指し手を動かす、指し手が駒を動かす
 駒の思を動かす思を動かす、思を動かす
 思を動かす思を動かす、思を動かす
 思を動かす思を動かす、思を動かす

創作者：竹取文庫（T）ホルヘ・メネンデス・ロドリゲス

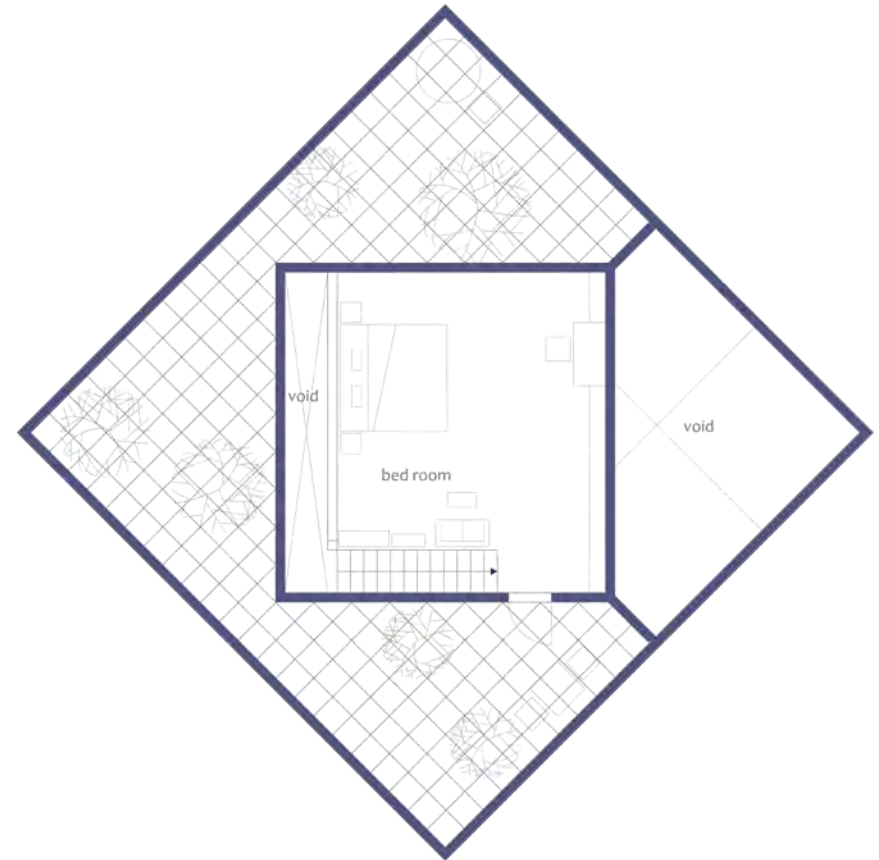
concept



4-2

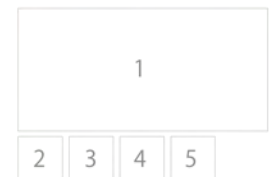
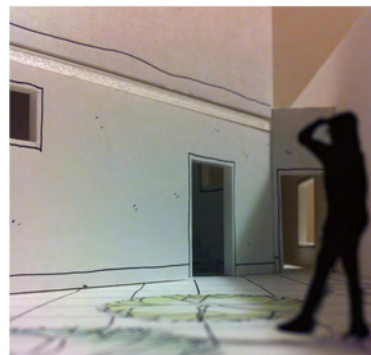
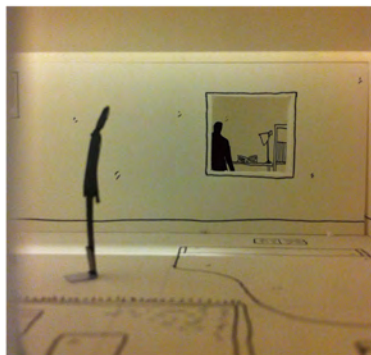


first floor



second floor

4-3



- 1 南西方角から見た建物外観
- 2 親世帯の書斎から子世帯のリビングの窓を見る
- 3 子世帯のリビングの窓から親世帯の書斎を見る
- 4 1F中庭から親世帯ベッドルーム方面を見る
- 5 南東方面を斜め上空から見る